

APIR Commentary No.42

世界の中の関西経済

関西と関東

しばしば印象論として「関西はアジアとの結びつきが強く、関東は先進国との結びつきが強い」と言われる。しかし、これを仮説としてデータで厳密に検証することは結構難しい。伝統的な方法は、関西と関東の貿易相手国の割合の違いをもって2つの地域圏間の違いを浮き彫りにするやり方である。ところが、例えば関西の税関を経由した物財の輸出、輸入のデータからだけでは、その物財が関西で生産されたかどうかまでは分からない¹。

そこで以下では非伝統的な分析を試みる。まず、関西2府5県（福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）の県内総生産を足し合わせて関西の域内総生産（GRP）とし、1都7県（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県）のGRPの合計を関東のGRPとする。データは内閣府が発表している県民経済計算に基づく2011年度までのものである²。こうして集計された関西GRPは日本全体のGDPの16.2%、関東GRPはGDPの38.6%を占めている。

表 関西モデル

関西モデル	関西	関東
G7	9,351.50 (13.46)**	16,934.48 (7.12)**
その他先進国	-56,204.09 (-9.07)**	-85,456.42 (-4.03)*
中東・北アフリカ	-19,554.69 (-8.10)**	-24,338.67 (-2.94)**
ASEAN5	56,016.38 (11.94)**	61,170.21 (3.95)**
定数項	16,967,819.93 (5.37)**	37,513,126.73 (3.47)**
adj R2	0.978	0.932
N	32	32
AIC	1025.33	1104.11
BIC	1032.66	1111.43

* p < 0.05 ** p < 0.01

IMF データ

次に、関西と関東の名目GRPを説明するデータをIMFの「世界経済見通しデータベース」に求めることにする。その中に国単位のGDPを地域ごとに集計したグループ集計データがある。地域グループは日本・韓国・香港も含む36カ国からなる「先進経済」から「サハラ以南アフリカ」45カ国まで14に整理されている。主なグループは以下のとおりである。

<主要先進経済 (G7)> カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、イギリス、アメリカ

<その他先進経済> 先進経済からG7およびユーロ圏を除いた14カ国

<ASEAN5> インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム

<中東・北アフリカ> アルジェリア・エジプト、イラン、イラク、クウェート、アラブ首長国連邦など20カ国

¹ 2014年版『関西経済白書』では、2013年中の関西域内税関経由の中国およびアジア向け輸出の割合は関西からの輸出総額の67.7%に達し（全国平均では36.2%）、中国・アジアからの輸入は57%（全国平均は22.5%）であったことを指摘している。

² 県民経済計算のデータは国全体のGDPデータより2年程度の遅れを伴って発表される。特に2012年度の県内総生産は東日本大震災の影響もあって遅れているものと推測される。

データは 1980 年以降の年次で、自国通貨表示、為替レート換算によるドル表示、および購買力平価 (PPP) 換算による国際ドル表示がある。2013 年～2019 年は IMF による予測値となっている。以下の推定で用いるのは国際ドル表示の GRP である。

関西モデル

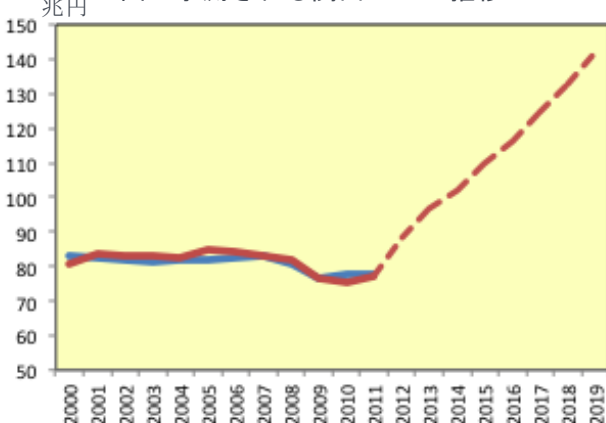
この世界経済見通しのデータを用いて、関西 GRP の総生産を説明するモデルを検出し、それを関西モデルと呼ぶことにする。関西モデルがどの程度関東に妥当するかについても見ておく。

関西 GRP に対して世界経済見通しの中の地域データで最も説明力が高かったのは、表の「関西」の列に示した変数である。この回帰式の自由度修正済み R2 は 0.978 で、非常に高い値を示している。用いられた変数の推定値はすべて 99%の有意水準で有意となっている。同じ変数を用いて関東の GRP を回帰した結果が表の「関東」列である。この推定式の自由度修正済み決定係数は 0.932 と関西圏の場合よりも若干低い、「その他先進国」で幾分有意度の低下が見られる他は、全体として良好な結果を与えている。

こうした比較を通じて明らかとなるのは、関西 GRP も関東 GRP も「G7」、アメリカを除く「その他先進国」、「中東・北アフリカ」、「ASEAN5」との連動性が高いことである。この指定の範囲内では、関西と関東で影響を受ける地域の相違は見られない。関西 GRP と関東 GRP が百万円単位の名目値であることを考慮に入れば、説明変数が関西、関東の GRP に与える影響は次のように小括できる。

「G7」の係数は関西でも関東でもプラスであることから、G7 諸国の GRP 拡大は両地域にプラスの影響を及ぼすが、その影響は関東の方が大きい。G7 の 100 万ドルの増加は、関西に 93 億円、関東に 169 億円の GRP 上昇をもたらす。「その他先進国」と「中東・北アフリカ」の係数はいずれの地域についてもマイナスで、これらの地域の GRP が拡大すれば、関西と関東の GRP にはマイナスの影響が及ぶ。ASEAN5 の GRP が 100 万ドル増加すれば、関西は 560 億円、関東には 612 億円の拡大効果がもたらされる。

図 予測される関西 GRP の推移



関西 GRP の予測

最後に、表の結果を用いて、関西 GRP の推移を 2012～19 年にわたって予測したのが図の赤い破線のグラフである。この結果は IMF のグループ GRP の 2019 年までの予測値に基づいている。

この予測によれば、2011 年度まで低迷を続けた関西経済は、2012 年度から 19 年度へかけて力強く上昇することになる。ここに示したのは、1980 年度から 2011 年度までの関西 GRP と世界 4 地域の GRP の統計的関係が将来も不変と仮定し、さらに IMF の予測値が正しいと仮定した場合の予測である。当然この予測は、2012 年度の東日本大震災の被害と復興、アベノミクスの影響等を考慮に入れていないため、一つの参考指標に過ぎない。それでも、これは久方ぶりに見る「右肩上がり」のグラフではないか。

<研究統括 林 敏彦 contact@apir.or.jp 06-6485-7690>

- ・本レポートは、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・本レポートは信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された内容は、今後予告なしに変更されることがあります。